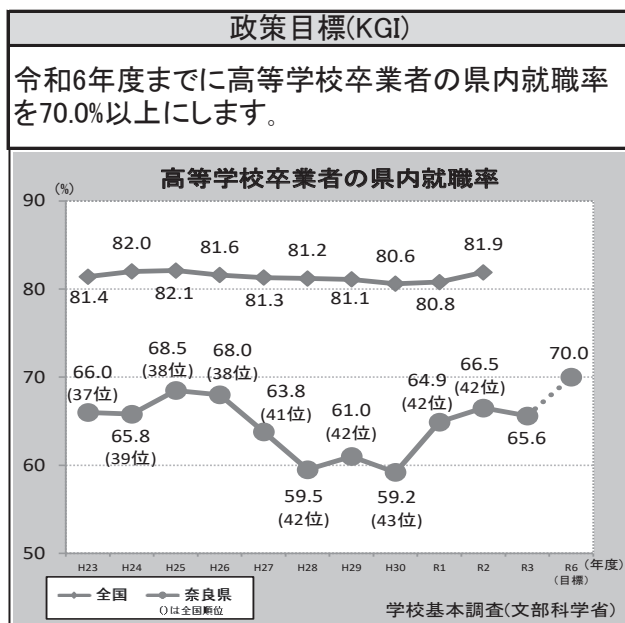


VI 智恵の「都」をつくる

坊
19 教育の振興

担当部局等
文化・教育・くらし創造部、こども・女性局、医療政策局、教育委員会

政策目標(KGI)達成に向けた進捗状況



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H23年度	R3年度	R3年度	95.0%	R6年度
66.0	65.6	69.1	②(90~100%)	70.0 (基準値未滿)
指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)				
令和3年度の公立高等学校卒業者の県内就職率は暫定値で65.6%でした。令和元年度から一旦上昇傾向になりましたが、70%手前の水準で止まっています。				
背景・要因等				
新型コロナウイルス感染症による影響により、高校生が県内企業等について直接見聞きする機会が減少し、企業について知ることが難しい状況にあります。このようなことから、令和3年度から高校生合同企業説明会を実施しています。				

関連する戦略目標(KPI)の進捗状況

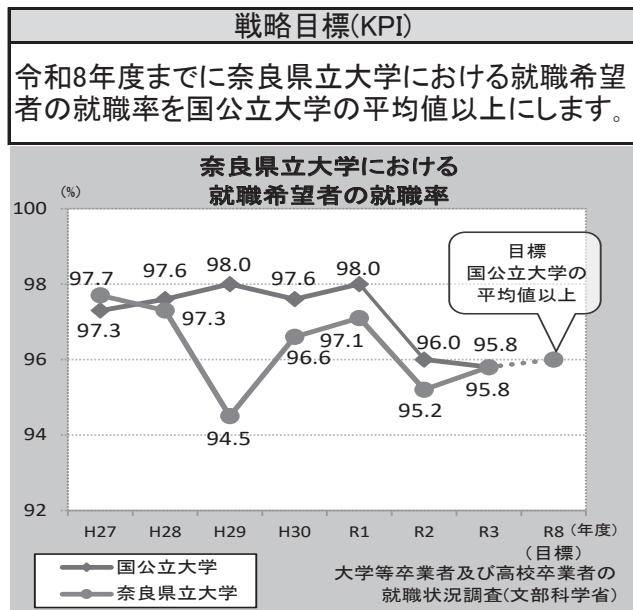
テーマ	戦略目標(KPI)	基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
				目安値(b)	進捗率(a/b)	
(92) 県立大学の教育の充実	令和8年度までに奈良県立大学における就職希望者の就職率を国公立大学の平均値以上にします。	H27年度	R3年度			R8年度
		97.7	95.8			国公立大学の平均値以上
(93) 県立医大教育の充実 県立医大教育将来像の深化	令和6年度まで各年度の評価委員会による項目別評価について、全項目5段階中IV以上を目指します。	R1年度	R2年度			R6年度
		4	4			全項目5段階中IV以上
(94) 県と大学との連携、県立大学・県立医大と他大学との連携強化	令和6年度までに大学との連携事業数(県全体)を100件にします。	H27年度	R3年度	R3年度	92.6%	R6年度
		69	83	89.7	②(90~100%)	100 (45.2%)
(95) 県立高校教育の充実	令和5年度までに高等学校再編を完了し、魅力と活力ある学校づくりを推進します。	「県立高等学校適正化実施計画」に沿って、令和3年度は、宇陀高校及び奈良南高校専攻科開校に向けての準備、また、登美ヶ丘高校及び平城高校の閉校に伴う業務を実施しました。				
(96) 実学教育の充実、インターンシップの推進	令和6年度までにインターンシップに参加する生徒の割合を25.0%にします。	H23年度	R3年度	R3年度	56.0%	R6年度
		15.8	12.8	22.9	③90%未滿	25.0 (基準値未滿)
(97) 就学前教育の充実	令和6年度までに奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」活用率を80%にします。	R1年度	R3年度	R3年度	101.6%	R6年度
		32.5	52.3	51.5	①100%以上	80 (41.7%)

テーマ 戦略目標(KPI)	基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
			目安値(b)	進捗率(a/b)	
(98) 私学の振興 令和6年度まで補助を活用した私学の優れた取組事例件数について、1校当たり7.5件以上を目指します。	H28年度 5.6	↑ + 1.9 件 7.5	R3年度 6.8	R3年度 110.5% ①100%以上	R6年度 7.5 (100.0%)
(99) 教育ICTの推進 令和7年度までに教員のICT活用指導力(教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力)を90.0%にします。	H23年度 72.4	↑ + 15.3 ポイント 87.7	R2年度 83.7	R2年度 104.8% ①100%以上	R7年度 90.0 (86.9%)
(100) 第2期奈良県教育振興大綱の推進 令和6年度までに学習意欲の項目に肯定的に回答した児童(小学生)生徒(中学生)の割合を全国平均以上にします。	小学校 77.8	H25年度 ↑ + 4.3 ポイント 82.1	R3年度 74.6		R6年度 全国 平均 以上
	中学校 68.0	↑ + 6.6 ポイント			

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	19 教育の振興
テーマ	(92) 県立大学の教育の充実

CC(チーフコーディネーター)
文化・教育・くらし創造部
教育振興課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H27年度	R3年度			R8年度
97.7	95.8			国公立大学の平均値以上
	▲1.9ポイント			

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

令和3年度の奈良県立大学卒業者の就職率は前年度比0.6ポイント増の95.8%となり、国公立大学の平均と同値となりました。

背景・要因等

初年次からのキャリア教育の充実や、就活生に対するきめ細かなサポートに取り組んでいます。令和2年度は、コロナ禍において多くの業種で採用規模が縮小し、全国的に就職率が落ち込みました。令和3年度は、コロナ禍における社会情勢が一定の落ち着きをみせ、採用規模も復調傾向となったことから、微増となりました。

KPI達成に向けた取組・成果			
取組①	新型コロナウイルス感染症の影響により休止していたインターンシップについて、コロナ禍に対応した実施方法に見直しを図り、令和3年度より再開しました。	成果①	延べ31名の学生が、大学経由でインターンシップに参加しました。(実習受入先:14団体)
取組②	コロナ禍により、就職活動のオンライン化が進むなど、就職活動の形態が大きく変わりました。県立大学においても、対面・遠隔(オンライン)を併用した就職対策講座を開講し、情報提供や個別相談等の就職支援を実施しました。	成果②	就職対策講座に延べ807名の学生が参加しました。(前期:8回、後期15回)

KPI関連指標	指標の動き						指標の動きの要因
キャリアデザイン科目の履修者数(人)	H30年度	↗	R1年度	↘	R2年度	↘	令和3年度からキャリアデザインⅡを2年生以上に科目配当したため、履修者数が減少しました。(従前はⅠⅡともに1年生以上に科目配当)
	176	+16人	192	▲9人	183	▲69人	
リベラルアーツ科目数(注)[累計](科目)	H30年度	↗	R1年度	↗	R2年度	↗	「奈良と仏像」、「文化財活用演習」、「情報技術と現代社会」、「データサイエンス概論」の4科目を新設しました。
	32	+4科目	36	+1科目	37	+4科目	

(注)リベラルアーツ…物事を総合的に思考するために必要な人文科学・社会科学・自然科学の基礎知識

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

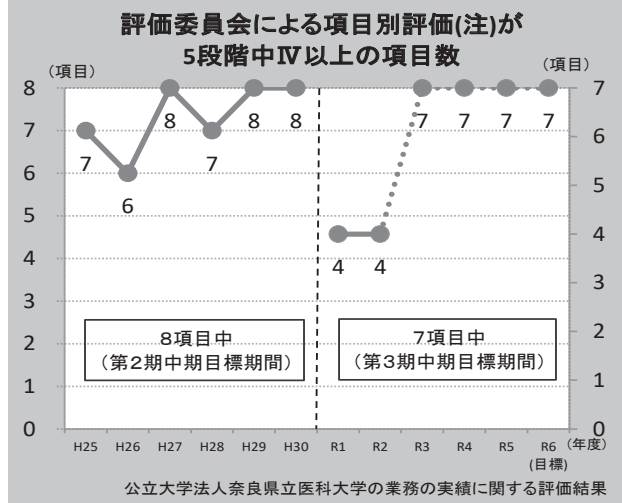
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
企業等の採用動向の変化に対応した就職支援が必要です。	新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、社会や経済の構造的変化が生じています。また、学生自身の就職観にも影響を及ぼしています。	採用面接等のオンライン化に対応した面接指導や個別相談、学内での業界研究会の開催、「キャリアデザイン」の講義や卒業生とも連携した「就職対策講座」を実施するなど、教員とキャリアサポート室が連携し、新たな環境に応じた就職支援を行います。
	今年度の取組(~7月)	
	インターンシップや就職対策講座などを通じて、学生が希望する就職が実現するよう就職支援を継続しています。	第2期中期目標に定めた「地域の経済・社会・行政等の分野で活躍する地域リーダーをつくる」ことを長期的な目標とし、新学部を設置や新設された附属高校との高度な高大接続など教育の充実に取り組めます。

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	19 教育の振興
テーマ	(93) 県立医大教育の充実 県立医大教育将来像の深化

CC(チーフコーディネーター)
医療政策局次長

**戦略目標(KPI)**  
令和6年度まで各年度の評価委員会による項目別評価について、全項目5段階中Ⅳ以上を目指します。



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
R1年度	→	R2年度		R6年度
4	+0項目	4		全項目5段階中Ⅳ以上

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

令和2年度の業務実績に関する評価委員会による項目別評価は7項目中4項目が5段階中Ⅳ以上の評価でした。

**背景・要因等**

県と県立医大で「医大の将来像実現推進会議」を年3回開催し、進捗状況の共有や課題の検討・協議を行うことで、中期目標・中期計画の実現に向けた県立医大の取組を推進し、全体として順調に進んでいると評価されました。一方で新型コロナウイルス感染症の影響で、特に実習等の対面での取り組みが実施できないなどの影響があったため、3項目について5段階中Ⅲの評価でした。

(注)評価委員会による項目別評価…地域貢献(教育)(研究)(診療)、教育、研究、診療、法人運営の7項目を5段階評価(第2期中期目標期間(H25~H30)は8項目)

KPI達成に向けた取組・成果		
取組①	看護師の質の向上のため、特定行為研修や専門看護師の資格取得者の増加を目指し意向調査や情報提供を行いました。	成果① 特定行為研修の(急性期コース)4名、(在宅コース)1名、専門看護師2名の志望者を発掘しました。
取組②	令和元年度に設置した「医師・患者関係学講座」を新たに6年次の臨床実習、1年次の医看合同科目「次世代医療人育成論」に導入し、実施しました。	成果② 高度医療、急性期医療、慢性疾患における医師・患者関係を理解するための教育を実施することができ、「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成につながりました。

KPI関連指標	指標の動き			指標の動きの要因		
専門看護師数[累計](人)	R1年度	→	R2年度	→	R3年度	看護師への意識調査や情報提供を行い志望者を発掘しました。なお現在、2名が専門看護師教育課程を受講中です。
	1	+0人	1	+0人	1	
PubMed(注)対象の英文学術論文数[累計](件)	H25-H29	R1	R2	R3		研究支援体制を強化するため、研究の入口段階から出口段階までを包括支援する先端学術研究支援機構を新設しました。
	1,871	651	1,383	2,221		
		+732件	+838件			

(注)PubMed…アメリカ国立医学図書館内の国立生物科学情報センター(NCBI)が運営する医学・生物学分野の学術論文検索サービス

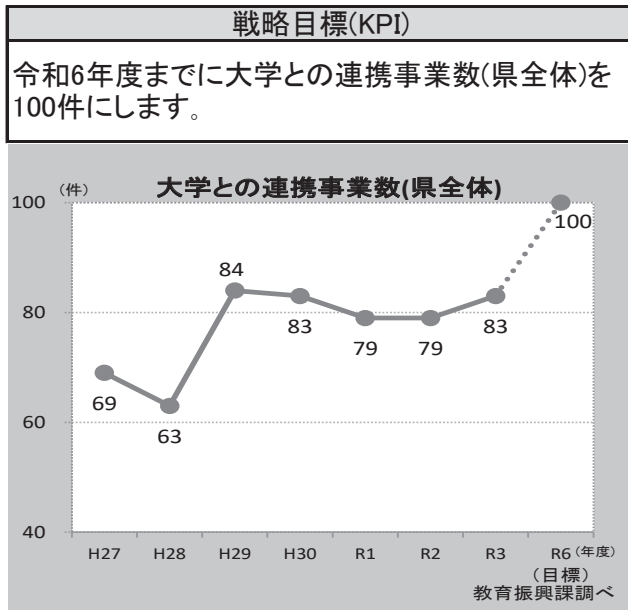
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
中期目標・中期計画の実現に向け、適切な進捗管理を行うことが必要です。	「地域貢献(研究)」及び「研究」は5段階中Ⅴの評価でしたが、「地域貢献(教育)」、「教育」及び「診療」は5段階中Ⅲの評価となりました。 <b>今年度の取組(～7月)</b> 7月に「第1回医大の将来像実現推進会議」を開催し、進捗状況の共有や課題の検討・協議を行いました。	「医大の将来像実現推進会議」を定期的で開催し、県立医科大学のPDCAマネジメントサイクルを推進します。 県立医大の第3期中期目標達成に向けた取組と大学・病院の運営に要する経費に対し、運営費交付金及び中期目標達成促進補助金等を交付します。

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	19 教育の振興
テーマ	(94) 県と大学との連携、県立大学・県立医大と他大学との連携強化

CC(チーフコーディネーター)
文化・教育・くらし創造部
教育振興課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H27年度	R3年度	R3年度	92.6%	R6年度
69	+14件 83	89.7	②(90~100%)	100 (45.2%)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

大学との連携事業数は、平成29年度に大幅に増加しました。以降は毎年80件前後を維持し、進捗率は92.6%となっています。

**背景・要因等**

平成20年に早稲田大学、平成28年に近畿大学と包括連携協定を締結し、他大学との連携協定締結や連携事業の新規開拓を行いながら、連携事業数を維持しています。

KPI達成に向けた取組・成果		
取組	大学の高度な知見を活用し、県政課題への対応策を検討するため、早稲田大学や近畿大学との包括協定に基づく連携事業を広く県部局から募集しました。	成果 令和3年度は「森林のまち吉野」における吉野材を活かした教育プログラムの開発や「うだ・アニマルパーク誘客促進事業」など6事業を実施しました。令和3年度までの間に早稲田大学・近畿大学とは67件の連携事業を実施しました。

KPI関連指標	指標の動き					指標の動きの要因		
	H30年度	→	R1年度	↗	R2年度		↗	R3年度
教育分野の連携事業数(件)	13	+0件	13	+3件	16	+8件	24	大学との事業に関する協定を新たに締結するなど、積極的に連携を進めています。

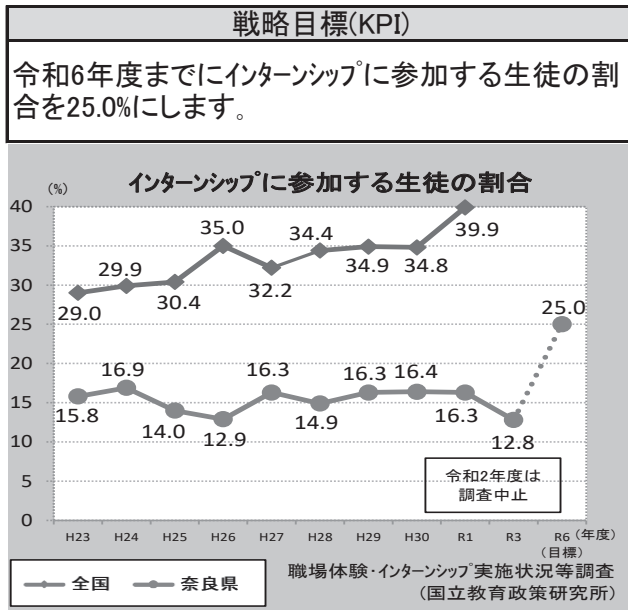
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
平成29年度以降、毎年80件前後で推移している連携数の増加を図る必要があります。	平成29年度以降、新たな包括協定の締結が行われていないことによる事業展開の難しさや、大学の高度な知見を活用した連携事業の具体例の周知不足が考えられます。	奈良先端科学技術大学院大学との包括協定に基づき、新たな事業連携を展開します。  奈良県大学連合学長会への県内外大学との連携事業の紹介などを通じて、さらなる連携事業の進展を図ります。
	<b>今年度の取組(~7月)</b> 令和4年6月に奈良先端科学技術大学院大学との包括協定を締結しました。	

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	19 教育の振興
テーマ	(96) 実学教育の充実、インターシップの推進

CC(チーフコーディネーター)
教育委員会
高校の特色づくり推進課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H23年度	R3年度	R3年度	56.0%	R6年度
15.8	▲3.0 ポイント	12.8	③90%未満	25.0 (基準値未満)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

令和3年度は暫定値として12.8%という結果となっています。なお、全国の数値は調査項目の変更により記録がありません。

**背景・要因等**

令和元年度までは、就職希望者に対して、各校においてインターシップに参加するように進路指導を行っていたため、概ね数値は横ばいでした。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、学校・受入企業等とともに実施を見合わせた状況にあることから、数値は減少しています。

KPI達成に向けた取組・成果	
<b>取組</b>	県立高等学校での実学教育の一環としての県内企業や連携企業等におけるインターシップや、奈良県版デュアルシステム(連携企業等と協働し学校での学習と企業での実習を組み合わせる教育システム)の実施、キャリアサポートセンターの運用によるインターシップを推進しています。
<b>成果</b>	新型コロナウイルス感染症の影響により実施が難しい状況の中でも取組を継続し、学校・受入企業等の双方で対策をしながら可能な範囲で実施したところ、令和3年度は668名の生徒がインターシップに参加しました。

KPI関連指標	指標の動き				指標の動きの要因			
	H29年度	H30年度	R1年度	R3年度				
インターシップに参加する生徒の割合(%)	16.3	▲0.1 ポイント	16.4	▲0.1 ポイント	16.3	▲3.5 ポイント	12.8	企業との連携、キャリアサポートセンターの運用等で一定水準は維持している状況です。

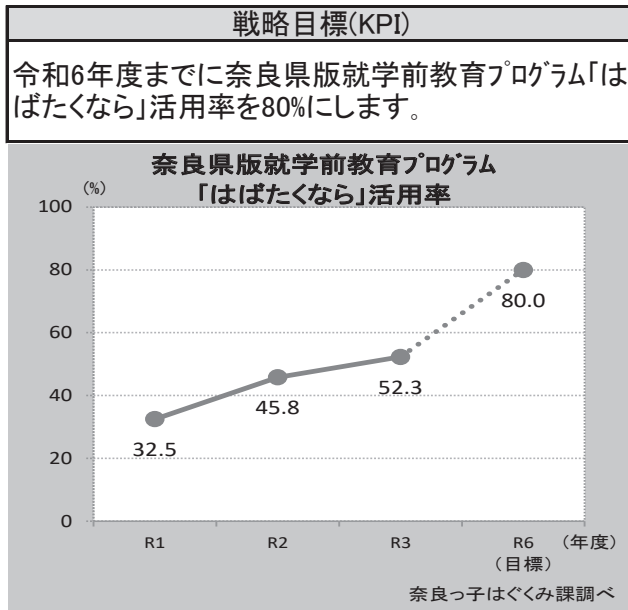
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
新型コロナウイルス感染症の影響でこの2年間、インターシップの実施は難しいとの印象が強くなっていることが懸念されます。	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、インターシップの実施を中止したり、実施方法を変更したりする企業が多くなっています。</p> <p><b>今年度の取組(~7月)</b></p> <p>県内の3校を指定校として、アカデミックインターシップや授業として取り組むインターシップ等、多様な方法を企画しました。</p>	<p>引き続き、県内企業や連携企業等におけるインターシップや、奈良県版デュアルシステムによるインターシップを推進します。また、キャリアサポートセンターの運用等によりインターシップ先の開拓等を行い、その情報を各高校に提供することで、インターシップ実施率の向上を図ります。</p> <p>キャリアフロンティア事業により、アカデミックインターシップや授業として取り組むインターシップを実施し、実践事例として各校と情報共有していきます。</p>

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	19 教育の振興
テーマ	(97) 就学前教育の充実

CC(チーフコーディネーター)
こども・女性局
奈良っ子はぐくみ課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
R1年度	R3年度	R3年度	101.6%	R6年度
32.5	52.3	51.5	①100%以上	80 (41.7%)
指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)				
「はばたくなら」の活用率は、令和元年度から上昇傾向にあり、概ね目標どおりの進捗状況です。				
背景・要因等				
各種の研修等における周知、就学前教育アドバイザー等による支援訪問、「はばたくなら」の実践事例集や「はばたくなら」の実践事例を漫画で分かり易く解説した普及啓発誌「はばたきの詩」の作成など、現場での実践や普及が進むように取り組んでいます。				

KPI達成に向けた取組・成果	
取組①	「はばたくなら」の更なる活用に向け、実践事例集を作成し、現場での活用を促進しています。
成果①	令和元年度、2年度に引き続き、実践事例集Vol.3を作成し、保育所、幼稚園、市町村等へ約500部配布しました。
取組②	普及啓発誌「はばたきの詩」を通じて、「はばたくなら」の普及啓発活動・実践を推進しています。
成果②	「はばたきの詩」第3号～第5号を発行し、保育所、幼稚園、市町村等へ約5,800部配布しました。

KPI関連指標	指標の動き			指標の動きの要因		
「はばたくなら」の活用促進に向けた「はぐくみ講座」受講者数[累計](人)	R1年度	↗	R2年度	↗	R3年度	「はばたくなら」についての周知が浸透し、「はぐくみ講座」の認知度が高まり、受講者数が増加しました。
	1,240	+ 829人	2,069	+ 338人	2,407	
音感受への意識を育む講演等実施回数[累計](回)	R1年度	→	R2年度	↗	R3年度	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、令和3年度は感染対策のうえ、講演等を実施しました。
	2	+ 0回	2	+ 1回	3	

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

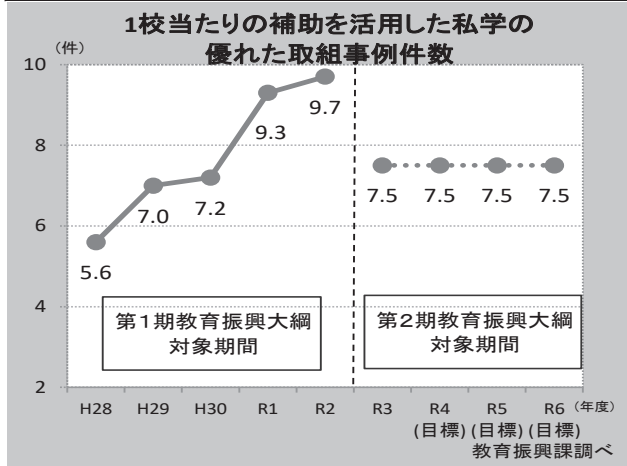
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
戦略目標達成に向け、「はばたくなら」の活用実績がない園への周知を図るなど、更なる活用の促進が必要です。	新型コロナウイルス感染症の影響等により、「はぐくみ講座」受講者数が減少したことが一因と考えられます。	「はばたきの詩」第6号及び総集編(第1号から第6号に収録されている全12話)を発行し、更なる普及活動と実践を推進します。また、引き続き「はばたくなら」実践事例集を作成・配布するとともに、「はぐくみ講座」の充実を図ります。
	今年度の取組(～7月)	
	就学前教育アドバイザーの支援訪問を実施しました。	就学前教育アドバイザーの利用実績がない園への周知を強化し、支援訪問の機会を増やします。

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	19 教育の振興
テーマ	(98) 私学の振興

CC(チーフコーディネーター)
文化・教育・くらし創造部
教育振興課長

**戦略目標(KPI)**  
令和6年度まで補助を活用した私学の優れた取組事例件数について、1校当たり7.5件以上を目指します。



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H28年度	R3年度	R3年度	110.5%	R6年度
5.6	+1.9件 7.5	6.8	①100%以上	7.5 (100.0%)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

第2期奈良県教育振興大綱における令和3年度の取組件数は目標値7.5件を達成しています。

背景・要因等

令和2年度では新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた学校提案型加算(注1)の募集を令和3年度では行いました。いじめ防止対策、ICT活用計画の策定・実施やアクティブラーニング等の取組が行われ、目標を達成しました。

(注1)学校提案型加算…特色ある取組を学校が提案し、審査委員会で採択された場合に加算

KPI達成に向けた取組・成果		
取組	令和3年3月に第2期教育振興大綱を策定しました。	成果
		大綱に基づき、令和3年度より政策推進加算(注2)項目を見直し、今後より私立学校に取り組んでいただきたい項目の追加等を行い、私立学校に対し周知しました。

(注2)政策推進加算…県が私学に求める項目について具体的な取組を実施した場合に加算

KPI関連指標	指標の動き	指標の動きの要因
いじめ防止対策等の取組(注3)(件)	R3年度	いじめ基本方針の策定に加え、生徒への周知、防止対策の実施状況を点検する取組へ支援を行いました。
	31	

(注3)第2期教育振興大綱により取組内容が変わり、令和2年度以前とは比較が出来ないため、令和3年度の数値のみ記載

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

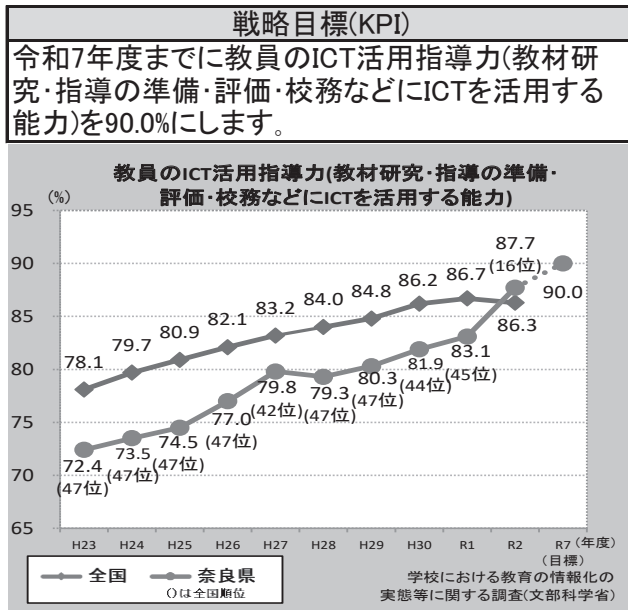
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
一層の取組件数の増加のため、私立学校への周知を引き続き行っていく必要があります。	政策推進加算項目の見直しを図ったことや、周知時期等により、私立学校によっては取り組むことが難しい面があったと考えられます。	令和3年度の優良事例集を配布し、事前にとり組内容の相談を受け付け、取組件数の増加を目指します。
	今年度の取組(~7月)	
	政策推進加算項目の周知の早期化を図り、説明会等で新規の追加項目等の周知を行いました。	



各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	19 教育の振興
テーマ	(99) 教育ICTの推進

CC(チーフコーディネーター)
教育委員会
教育研究所教育情報化推進部長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H23年度	R2年度	R2年度	104.8%	R7年度
72.4	+15.3ポイント 87.7	83.7	①100%以上	90.0 (86.9%)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

全国と比較すると下位の状態が続いていましたが、一気に向上し令和2年度末の調査で全国平均以上まで上昇しました。

背景・要因等

令和2年度末までに県内の小中学校で児童生徒用端末が他県より早く整備されました。さらにコロナ禍の影響もあり、すべての教職員が本格的に校務や授業等でICTの活用を始めるため、積極的に研修を受講したことが要因です。

KPI達成に向けた取組・成果		
取組①	全教職員がGoogle Workspace for Education を活用して授業が行えるようになるために、オンライン研修である「先生応援プログラム」を令和2年10月から実施しています。	成果① 令和2年度は実質半年間でのべ5198名の参加があり、参加者満足度調査においては約90%から肯定的な回答を得られました。令和3年度はプログラムを精選したため、前年度より参加者は減ったものの満足率は約95%を超えました。
取組②	教育情報化を推進するリーダーを育成するためのSTEAM教育エバンジェリスト(注)育成研修を令和元年度から実施しています。	成果② 各学校でのICT活用の活性化を目指すため、リーダー育成研修講座の研修参加者が着実に増えています。

(注)STEAM教育エバンジェリスト…先進的、先導的な教育を推進している人材との交流や、施設や学校の視察等を行い、Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematicsという領域において、質の高い教育活動を実践・推進できる教員

KPI関連指標	指標の動き				指標の動きの要因			
先生応援プログラム受講者数(R2年度より実施)(人)	R2年度		R3年度		令和2年度は1人1台端末導入したことで多数の受講がありました。令和3年度は前年度に多数の教職員が受講したため受講者数は減少しました。			
	5,198	▲3,967人	1,231					
エバンジェリスト研修受講人数(H30年度は類似の別研修)(人)	H30年度	↑	R1年度	↑	R2年度	↑	R3年度	ICT活用をさらに図りたいという学校が増加している背景があります。
	44	+112人	156	+322人	478	+66人	544	

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

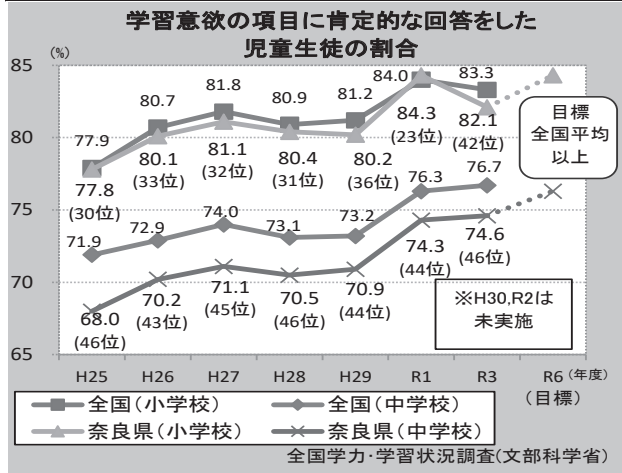
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
県立学校において1人1台端末の授業での効果的な活用が求められます。	県立学校では学校の環境、教員の能力や意識による差があります。その上で、「令和の学び」の実現を目指すことが求められています。	令和4年度は県立学校に電子黒板を1学年分配備します。今後、全学年に配備する予定です。
	今年度の取組(～7月) 電子黒板と指導用端末の活用についての研修を夏期休業中に実施しました。	県立学校に指導用端末を配備し授業等で活用するために、1人1台端末の活用事例の共有を図ります。

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	19 教育の振興
テーマ	(100) 第2期奈良県教育振興大綱の推進

CC(チーフコーディネーター)
文化・教育・くらし創造部
教育振興課長

**戦略目標(KPI)**  
令和6年度までに学習意欲の項目に肯定的に回答した児童(小学生)生徒(中学生)の割合を全国平均以上にします。



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H25年度	R3年度			R6年度
小学校	77.8	↑ + 4.3 ポイント	82.1	全国平均以上
中学校	68.0	↑ + 6.6 ポイント	74.6	

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

全国学力・学習状況調査における学習意欲の項目に肯定的な回答をした児童生徒の割合が、小学校、中学校とも全国平均との差が大きくなっています。

背景・要因等

「学級の児童生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」の肯定的回答(小:76.8%、中:67.3%)が全国平均(小:78.8%、中:77.8%)と比べて低いです。他者との対話を通して、新たな学びを生み出す「対話型授業」への質的転換を推進しています。

KPI達成に向けた取組・成果		
取組①	令和3年12月1日に、知事と教育委員会で教育政策の課題の解決について協議を行う「奈良県総合教育会議」を開催しました。	成果① 「奈良県総合教育会議」において、第2期奈良県教育振興大綱の評価指標および目標を定めました。
取組②	令和4年1月28日に県と市町村が教育課題について情報共有を行う「奈良県教育サミット」を開催しました。	成果② 「奈良県教育サミット」において、「ポストコロナ期の新たな学びの在り方について」と題し、教育DXの推進によるSTEAM教育や、県立青翔中学校・高等学校における対話型授業を紹介し、意見交換を行いました。

KPI関連指標	指標の動き				指標の動きの要因			
規範意識の項目に肯定的な回答をした児童(小学生)の割合(注)(%)	H28年度 93.6	→ + 0.0 ポイント	H29年度 93.6	↘ ▲ 0.6 ポイント	H30年度 93.0	↗ + 1.8 ポイント	R1年度 94.8	自尊心・利他心をはぐくむ就学前教育を推進しています。
規範意識の項目に肯定的な回答をした生徒(中学生)の割合(注)(%)	H28年度 92.4	↘ ▲ 0.4 ポイント	H29年度 92.0	↗ + 2.0 ポイント	H30年度 94.0	↗ + 0.2 ポイント	R1年度 94.2	規範意識を高めるため自尊感情とともに、他者や地域との関わりを深める取組を進めています。

(注)令和2年度は未実施、令和3年度より調査項目が変更となったため、令和元年度までの数値を記載

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
多岐にわたる第2期奈良県教育振興大綱に沿った取組について、推進状況を把握できるような効果的な検証が必要です。	奈良県教育が目指す方向性を「本人のための教育」とし、一人ひとりの「学ぶ力」「生きる力」をはぐくむ本人のための教育を行う必要があります。 今年度の取組(~7月) 令和3年度に定めた評価指標の進捗状況の確認・分析作業を実施しました。	「奈良県総合教育会議」において、知事と教育委員会で評価指標に基づく検証や教育施策の課題の解決策について協議を行います。 「奈良県教育サミット」において、県と市町村が教育課題について情報等を共有し、協働して教育施策を推進します。

数値目標が設定されていないテーマ等の進捗状況、課題の明確化、今後の取組方針

坊	19 教育の振興	CC	教育委員会
テーマ	(95) 県立高校教育の充実		高校の特色づくり推進課長
戦略目標(KPI)		進捗状況及び取組・成果	
令和5年度までに高等学校再編を完了し、魅力と活力ある学校づくりを推進します。		「県立高等学校適正化実施計画」に沿って、令和3年度は、宇陀高校及び奈良南高校専攻科開校に向けての準備、また、登美ヶ丘高校及び平城高校の閉校に伴う業務を実施しました。	

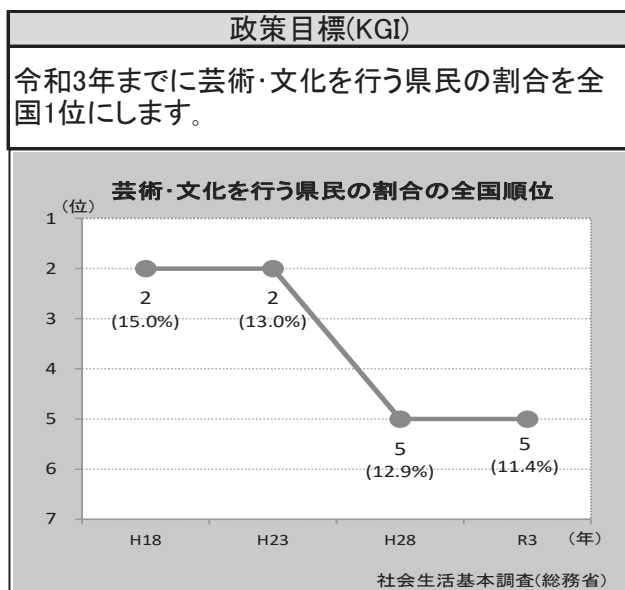
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
専攻科生徒の確保が必要です。	<p>コロナ禍のため、参集型の入試説明会を実施することができないことから、受験生の確保が難しい状況です。</p>	<p>オンラインによる説明会をはじめ、専攻科の魅力を、様々な場面で発信します。 また、高校生だけでなく、社会人や留学生に対しても専攻科について広く周知します。</p>
	<p>今年度の取組(~7月)</p>	
	<p>周知のためのチラシを作成し、配布をしました。</p>	

VI 智恵の「都」をつくる

坊
20 文化の振興

担当部局等
文化・教育・くらし創造部

政策目標(KGI)達成に向けた進捗状況



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H18年	R3年			R3年
2	5			全国1位

▲3位

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

令和3年の芸術・文化を行う県民の割合は、平成28年と比較して、1.5ポイント減少していますが、全国平均を上回り、全国順位も5位を維持しています。

背景・要因等

質の高いイベントを実施し、芸術文化への参加・鑑賞の機会を確保できるよう様々な工夫を行っており、芸術・文化を行う県民の割合は堅調に推移しています。

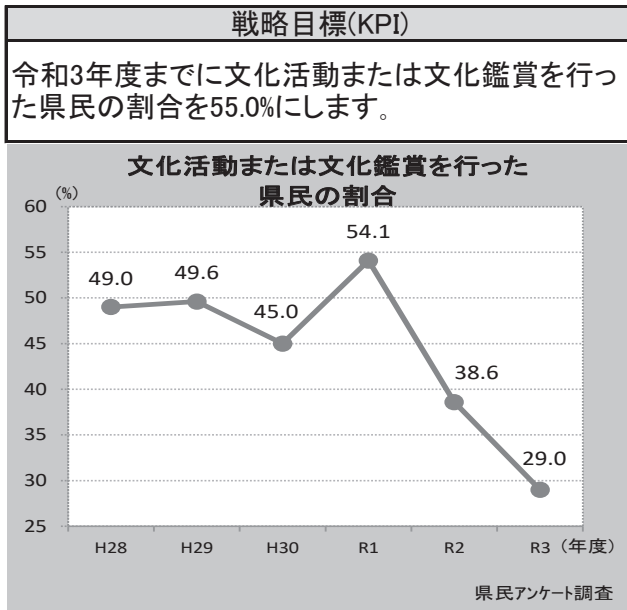
関連する戦略目標(KPI)の進捗状況

テーマ	戦略目標(KPI)	基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
				目安値(b)	進捗率(a/b)	
(101) 文化の振興と文化振興条例	令和3年度までに文化活動または文化鑑賞を行った県民の割合を55.0%にします。	H28年度 49.0	R3年度 29.0	R3年度 55.0	52.7%	R3年度 55.0 (基準値未滿)
(102) 文化観光推進事業・日本博事業への参加	令和6年度までに県立文化施設の来訪者数を1,905千人にします。	H23年度 1,344	R3年度 741	R3年度 1,775.5	41.7%	R6年度 1,905 (基準値未滿)
(103) 記紀万葉プロジェクトのこれから	令和5年度まで県民の生活に関する満足度において、「文化遺産や史跡が大事にされること」の満足度3.5ポイント以上を目指します。	H23年度 3.55	R3年度 3.57			R5年度 3.5ポイント以上を維持
(104) 文化財の保存と活用	令和6年度まで重要文化財指定件数全国3位を維持します。	H28年度 3	R3年度 3			R6年度 全国3位を維持
(105) 文化財防災対策の構築	令和6年度まで奈良県文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議の参加者数について毎年120人程度を維持します。	H27年度 197	R3年度 112			R6年度 120人程度を維持
(106) 飛鳥・藤原の世界遺産登録	令和6年度の世界遺産登録を目指します。	令和4年度の国内推薦の獲得を目標に、関係市村とともに推薦書(素案)のブラッシュアップ、資産範囲の検討、普及啓発活動などを進めました。				
(107) なら歴史芸術文化村の活用策の検討	令和5年度まで県民の生活に関する満足度において、「文化資産や史跡が大事にされること」の満足度3.5ポイント以上を目指します。	H23年度 3.55	R3年度 3.57			R5年度 3.5ポイント以上を維持

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	20 文化の振興
テーマ	(101) 文化の振興と文化振興条例

CC(チーフコーディネーター)
文化・教育・くらし創造部
文化振興課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H28年度	R3年度	R3年度	52.7%	R3年度
49.0	29.0	55.0	③90%未満	55.0 (基準値未満)

▲20.0ポイント

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

令和元年度に54.1%となり、目標に向かい増加傾向にありました。しかし、令和2年度以降は減少傾向が続き、令和3年度は令和2年度に比べ9.6ポイント減少し、目標値には届きませんでした。

**背景・要因等**

令和元年度まで「ムジークフェストなら」の開催や県立美術館での特別展の開催に精力的に取り組んだことにより増加傾向にありました。しかし、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため各種イベントを中止するなど、活動制限を受けたことにより、減少傾向が続いています。

KPI達成に向けた取組・成果	
取組①	<p>コロナ禍にあっても文化活動・文化鑑賞が行えるよう、「ムジークフェストなら」や「奈良県みんなでのしむ大芸術祭」において、YouTubeによる動画配信を実施しました。</p> <p>成果①</p> <p>動画配信により、近畿圏以外の地域からの視聴等もあったことから、これまで「会場が遠かった」、「時間がなかった」という理由で参加できなかった方にも参加する機会を提供することができました。</p>
取組②	<p>なら歴史芸術文化村の整備が完了し、令和4年3月21日に開村しました。</p> <p>成果②</p> <p>オープニングイベントの開催等により賑わいを創出し、県内外から多くの方に来館いただきました。</p>

KPI関連指標	指標の動き				指標の動きの要因			
県立ジュニアオーケストラ(注1)の団員数[累計](人)	H30年度	↗	R1年度	↘	R2年度	↗	R3年度	結成10年目を迎え、認知度も高まっており、令和3年度は令和2年度に比べ2名増加しました。
	39	+1人	40	▲5人	35	+2人	37	
県立美術館での特別展開催数(催事)	H30年度	↗	R1年度	→	R2年度	→	R3年度	令和元年度に催事数を充実して以降、年間3回の開催を継続しています。
	2	+1催事	3	+0催事	3	+0催事	3	

(注1)県立ジュニアオーケストラ…県立文化会館を拠点に活動

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

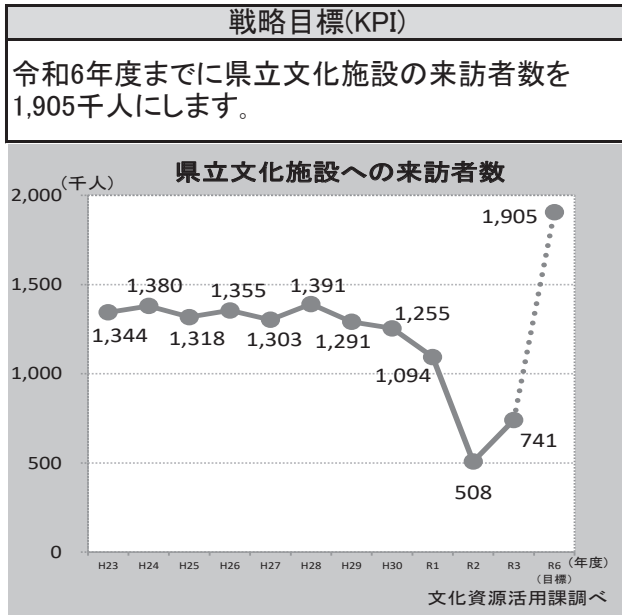
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
<p>県民の文化活動・文化鑑賞を促進するため、本県の文化振興の更なる充実を図っていく必要があります。</p>	<p>なら歴史芸術文化村のおもてなし向上や活用促進、JNO(注2)との連携協定(令和4年2月締結)に基づく具体的な取組の推進が求められています。</p>	<p>来館者の声や、有識者等で構成するコミッション会議の意見を踏まえ、なら歴史芸術文化村のおもてなし向上と、活用促進に取り組めます。</p> <p>JNOと連携し、県内の児童・生徒を対象とした楽器指導、演奏会、交流を計画的に進めます。</p>
	<p><b>今年度の取組(~7月)</b></p> <p>なら歴史芸術文化村を円滑に運営するとともに、JNOとの連携事業に着手しました。</p>	

(注2)JNO…Japan National Orchestra(株)

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	20 文化の振興
テーマ	(102) 文化観光推進事業・日本博事業への参加

CC(チーフコーディネーター)
文化・教育・くらし創造部
文化資源活用課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H23年度	R3年度	R3年度	41.7%	R6年度
1,344	741 ▲603 千人	1,775.5	③90%未満	1,905 (基準値未満)
指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)				
令和3年度の県立文化施設の来館者数は、基準値の1,344千人から603千人減少していますが、令和2年度と比較して233千人増加しています。				
背景・要因等				
令和3年度は、来訪者の受入方法を工夫するなど新型コロナウイルス感染症対策の徹底に努めました。また、なら歴史芸術文化村の開村や、橿原考古学研究所をリニューアルオープンしました。その他、日本博事業として芸能実演や講演会等を、文化観光推進事業として県立文化施設の展示解説の多言語化やWi-Fi整備等を実施しました。				

KPI達成に向けた取組・成果	
取組①	文化観光推進事業においては、県立文化施設のトイレのバリアフリー化、キャッシュレス決済導入を実施しました。また、万葉文化館におけるテーマベース整備、万葉文化館をまわるツアーメニュー開発に向けてのモニターツアーを実施しました。
成果①	キャッシュレス決済を導入することで、国内外からの施設利用者の利便性が向上しました。また、県立文化施設の整備を行うことにより、満足度向上につなげることができました。
取組②	日本博事業においては、聖徳太子没後1400年を迎え、太子ゆかりの法隆寺において、奈良県ゆかりの伝統芸能を披露する特別講演の開催などの取組を実施しました。また、高松塚古墳壁画の発見50周年を迎えたことから、文化庁と連携し展示会やシンポジウムなどの記念事業等を実施しました。
成果②	聖徳太子没後1400年法隆寺特別公演を開催し、2日間で1,004名の方々にご来場いただきました。また、高松塚古墳壁画発見50周年記念シンポジウムを東京で開催し、276名の方にご参加いただきました。

KPI関連指標	指標の動き				指標の動きの要因
	R1年度	R2年度	R3年度		
日本博事業でのイベント数(件)	5	10	10	+5件 → +0件	歴史文化資源を活用した多様な取組を進めるため、昨年度と同程度の事業を展開しました。

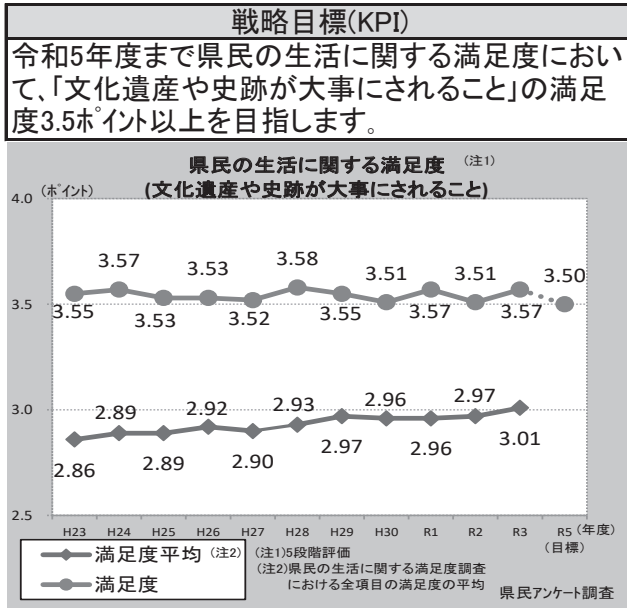
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上で、様々な企画イベント等を実施し、多くの方々に来場いただける機会を創出する必要があります。	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、文化施設の一時閉館や利用制限などを行ったため令和元年から令和2年にかけて来訪者数が減少しました。令和3年は感染予防対策を講じ、徐々に来訪者数も回復しています。</p> <p>今年度の取組(～7月)</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大状況を考慮しつつ、インバウンド対応も踏まえた事業展開を検討しました。</p>	<p>文化観光推進事業においては、令和4年度以降もいかに・なら地域計画に基づき、VR等コンテンツ制作や施設の整備を進め、文化観光拠点施設である県立文化施設の利便性・アメニティ向上といった機能強化に取り組みます。</p> <p>県内外を含む多くの方々に県立文化施設に訪れていただくため、一層の感染予防対策を講じます。また、歴史文化資源を活用した展示会や講演会等を実施するとともに、オンラインを含む多様な情報発信にも取り組みます。</p>

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	20 文化の振興
テーマ	(103) 記紀万葉プロジェクトのこれから

CC(チーフコーディネーター)
文化・教育・くらし創造部
文化資源活用課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H23年度	R3年度			R5年度
3.55	+0.02 ポイント 3.57			3.5ポイント 以上を維持

**指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)**  
令和3年度の県民の生活に関する満足度は、基準値の3.55ポイントから0.02ポイント上昇しました。基準年度である平成23年度以降、目標値の3.50ポイント以上を維持しています。

**背景・要因等**  
令和3年は、なら記紀・万葉プロジェクトにおいて、没後1400年を迎えた聖徳太子と太子が活躍された時代を主要テーマとしました。太子にゆかりのある各地域と連携し、リレー講座の開催、エクスカーションの実施など、歴史文化資源の本質的価値の理解につながる取組を積極的に行いました。

KPI達成に向けた取組・成果	
<b>取組</b>	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、リレー講座などの集客イベントについては、客席の間隔を空けるなど十分な感染対策を講じました。また、インターネット配信などにより、イベント参加者以外にも広く内容を伝えられる取組を行いました。
<b>成果</b>	インターネット配信を行ったことにより会場の定員を大きく上回る方々に視聴いただきました。さらに、アーカイブ配信によりイベント後においても継続して聖徳太子に関する情報を発信することができました。

KPI関連指標	指標の動き				指標の動きの要因			
ホームページ「記紀・万葉プロジェクト」のアクセス数(件)	H30年	↗	R1年	↗	R2年	↗	R3年	若年層に人気のイラストレーターの起用等、聖徳太子を幅広い世代にPRした結果、多くの方々にアクセスいただきました。
	136,849	+107,859 件	244,708	+7,691 件	252,399	+140,278 件	392,677	
補助金を通じた歴史文化資源を活用するイベント実施団体への支援数(件)	H30年度	↘	R1年度	↘	R2年度	↗	R3年度	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業実施を見送る団体が多い現状です。
	19	▲3 件	16	▲7 件	9	+2 件	11	

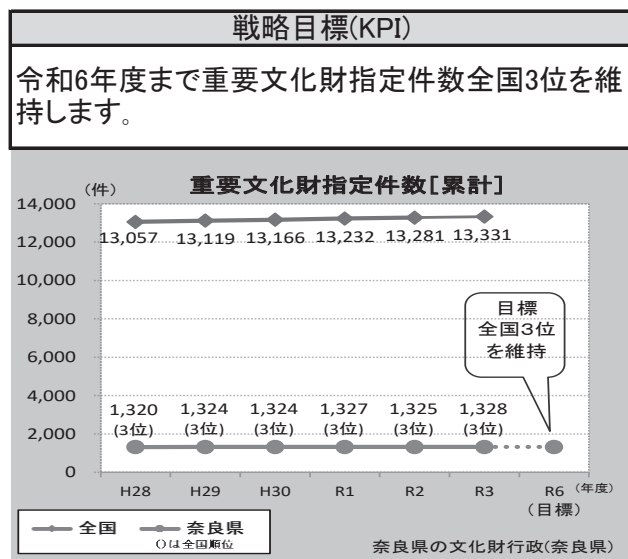
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
引き続き、「記紀・万葉」を中心とした歴史文化資源の本質的価値の理解につながる取組を展開していく必要があります。	高い満足度が維持されていますが、将来にわたりこの状態を維持するためには、既存の歴史ファン層だけではなく、幅広い年齢層の方々に奈良県の歴史文化資源に関心を持っていただくことが必要です。	2022年は、壬申の乱1350年の節目の年であることから、プロジェクトの主要テーマとして「壬申の乱」を取り上げます。幅広い層の方々に歴史を追体験していただく取組として講演会、ウォークイベント、ゆかり地を巡る周遊イベントの実施など多様な企画により歴史との対話を楽しんでいただける機会を創出します。
	<b>今年度の取組(～7月)</b> 今年度の歴史文化資源関連事業について、歴史文化資源の本質的価値の理解につながるよう、また、若年層を含めた幅広い世代の関心を得られるよう事業展開を検討しました。	

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	20 文化の振興
テーマ	(104) 文化財の保存と活用 (105) 文化財防災対策の構築

CC(チーフコーディネーター)
文化・教育・くらし創造部
文化財保存課長



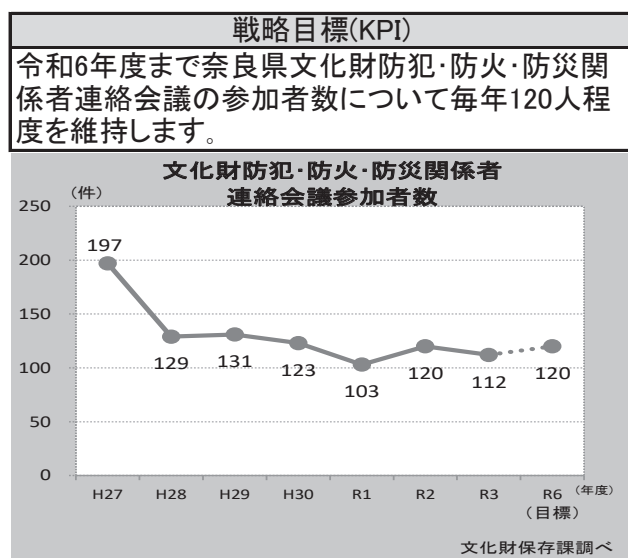
基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H28年度	→ R3年度			R6年度
3	+0位	3		全国3位を維持

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

重要文化財指定件数は全国3位を維持する目標を達成し、順調に推移しています。

背景・要因等

本県の文化財の価値が評価された結果、重要文化財が3件増加し、全国3位を維持しています。



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H27年度	↘ R3年度			R6年度
197	▲85人	112		120人程度を維持

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

令和3年度の奈良県文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議の参加者数は112人となり、目標を概ね達成し、順調に推移しています。

背景・要因等

新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、感染防止対策を徹底した上で、参加を呼びかけたところ、結果的には112人の参加を得て、会議を開催できました。

KPI達成に向けた取組・成果			
取組①	重要文化財の指定候補となる県指定文化財について、調査・研究の上、指定の手続きを進めました。	成果①	奈良県文化財保護審議会への諮問・答申を経て、令和3年度は新たに7件の指定を行いました。
取組②	指定された文化財を保存するための修理や防災対策等を推進しました。	成果②	令和3年度は、国・県指定文化財の保存修理、防災関係機器の整備・点検及び史跡地の公有化等に対する補助を実施しました。

KPI関連指標	指標の動き						指標の動きの要因	
	H30年度	変化	R1年度	変化	R2年度	変化		R3年度
県指定文化財件数[累計](件)	557	+6件	563	+5件	568	+6件	574	新たに7件の指定を行った一方、1件が国指定文化財となったため、6件の増加となりました。
文化財保存事業費補助金(予算)(百万円)	437	▲3百万円	434	▲26百万円	408	+7百万円	415	新たに、なら歴史芸術文化村での文化財の公開修理に対する補助を実施しました。



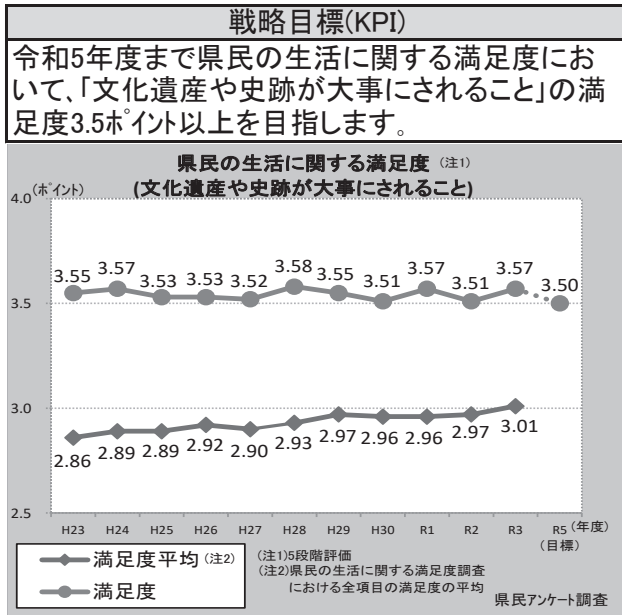
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
<p>まだ調査・研究されていない文化財が存在します。また、経年劣化や災害等による文化財の滅失・毀損のおそれがあります。</p>	<p>文化財の指定には、その調査・研究が必要です。また、指定文化財の滅失・毀損を防ぐためには、保存修理等が必要です。</p>	<p>今後、奈良県文化財保護審議会に指定文化財の候補を諮問し、その答申を経た上で、指定の手続きを進めます。</p>
	<p>今年度の取組(~7月)</p>	<p>引き続き、なら歴史芸術文化村での公開修理など、指定文化財の保存修理等を進めます。</p>
	<p>指定候補となる文化財の調査・研究と、指定文化財の保存修理等を進めました。</p>	

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	20 文化の振興
テーマ	(107) なら歴史芸術文化村の活用策の検討

CC(チーフコーディネーター)
文化・教育・くらし創造部理事



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H23年度	3.55	R3年度		R5年度
	+0.02 ポイント	3.57		3.5ポイント以上を維持

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)  
令和3年度の県民の生活に関する満足度は、基準値の3.55ポイントから0.02ポイント上昇しました。基準年度である平成23年度以降、目標値の3.50ポイント以上を維持しています。

**背景・要因等**  
令和3年4月施行の奈良県文化振興条例において、なら歴史芸術文化村を歴史文化資源の継承及び活用に関する施策を推進する拠点として位置づけて、事業展開に取り組んでいます。  
また、令和4年3月21日の開村に向けて、なら歴史芸術文化村の活動理念についても幅広く発信しました。

KPI達成に向けた取組・成果		
<b>取組</b>	令和4年3月21日なら歴史芸術文化村が開村しました。文化財の修理公開、展示とともに歴史文化にかかるセミナーや体験イベントなどを開催しました。	<b>成果</b> 多様な主体と連携し、歴史文化資源の継承と活用や文化活動の振興に関する拠点施設として活動を開始しました。

KPI関連指標	指標の動き		指標の動きの要因
Facebook「なら歴史芸術文化村」のアクセス数 [累計](件)	R2年度	R3年度	令和4年3月21日開村前後においてオープニングイベントや、各種メディアへの効果的なプロモーションを行ったことにより、アクセス数が増加しました。
	9,310	306,832	
		+297,522 件	

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
来村者との交流を重視し、一人ひとりの感性や知識、関心に寄り添った自発的な学びを支援する取組を展開していく必要があります。	高い満足度が維持されていますが、将来にわたりこの状態を維持するためには、『なぜ?』が芽生える。『知る』を楽しむ。』という文化村のテーマにふさわしい事業展開が求められています。	引き続き、歴史文化資源を活用した対話重視の体験や、子ども達の自尊心、利他心を養うことにつながる創作活動の場となる取組を積極的に展開します。  文化財の修復工程の映像化やVR、AR映像等の制作、県内学校への郷土教育の場としての活用の働きかけなどの取組を行います。
	<b>今年度の取組(~7月)</b> 文化財の修復公開・展示、学芸員による解説、子ども達を対象としたアート体験プログラム等を展開しています。	

数値目標が設定されていないテーマ等の進捗状況、課題の明確化、今後の取組方針

坊	20 文化の振興	CC	文化・教育・くらし創造部
テーマ	(106) 飛鳥・藤原の世界遺産登録		文化資源活用課長
戦略目標(KPI)		進捗状況及び取組・成果	
令和6年度の世界遺産登録を目指します。		令和4年度の国内推薦の獲得を目標に、関係市村とともに推薦書(素案)のブラッシュアップ、資産範囲の検討、普及啓発活動などを進めました。	

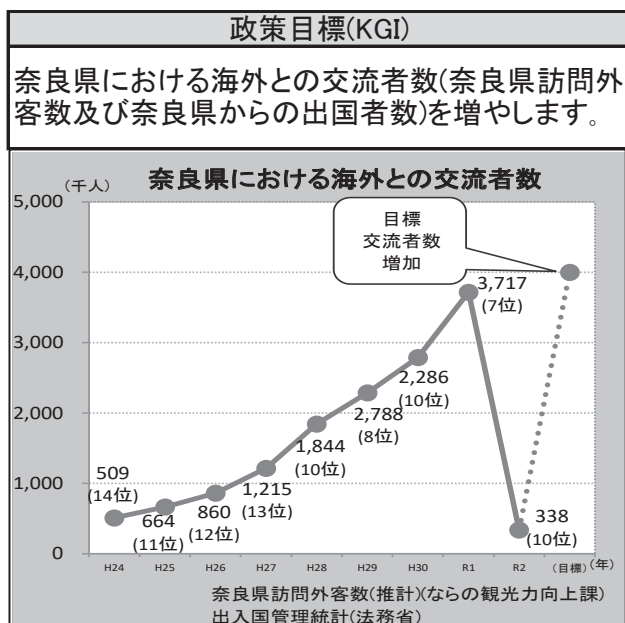
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
令和7年度の世界遺産登録のためには、令和5年度に国内推薦候補として選定される必要があります。	令和4年度国内推薦候補選定が見送られたため、登録までの最短スケジュールは1年送りとなり、国内推薦候補選定(令和5年)、イコモス現地調査(令和6年)、世界遺産委員会登録審議(令和7年)となります。	<p>世界遺産に必要な資産の保護措置の充実、資産の価値を県民に向けてわかりやすく説明する取組などを進めていきます。</p> <p>政府からユネスコに提出する正式推薦書の作成準備を進めていきます。</p>
	<p>今年度の取組(~7月)</p> <p>国内推薦候補選定にかかる書類を文化庁に提出しました。</p>	

VI 智恵の「都」をつくる

坊
21 海外との交流展開

担当部局等
知事公室、 文化・教育・くらし創造部

政策目標(KGI)達成に向けた進捗状況



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H24年	R2年 338 ▲171千人	/		交流者数を増やす
509				
指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)				
令和2年の海外との交流者数は前年より3,379千人減少し、338千人となりました。全国順位は前年より3位下がりましたが、上位を維持しています。				
背景・要因等				
新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延による渡航制限に伴い、全国的に海外との往来が大幅に減少しました。				

関連する戦略目標(KPI)の進捗状況

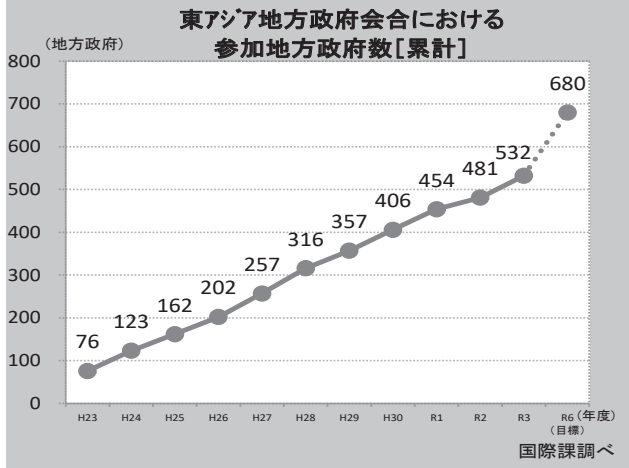
テーマ	戦略目標(KPI)	基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
				目安値(b)	進捗率(a/b)	
(108) 東アジア地方政府会合の充実発展	令和6年度までに東アジア地方政府会合における参加地方政府数(累計)を680地方政府にします。	H23年度	R3年度 532 +456地方政府	R3年度	98.4%	R6年度
		76		540.6	②(90~100%)	680(75.5%)
(109) 奈良県の国際交流の強化・拡大	令和6年度までに国際交流を行う地方政府等の数を92機関にします。	H23年度	R3年度 91 +31機関	R3年度	107.5%	R6年度
		60		84.6	①100%以上	92(96.9%)
(110) 奈良の仏像、文化財の海外展示のこれから	令和4年秋以降に仏像等海外展示の開催を目指します。	令和3年度は、中国・清華大学芸術博物館と協議の上、県立橿原考古学研究所所管の考古資料を中心とする出陳作品リスト案を策定し、開催協定書案を作成しました。				

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	21 海外との交流展開
テーマ	(108) 東アジア地方政府会合の充実発展

CC(チーフコーディネーター)
知事公室
国際課長

戦略目標(KPI)
令和6年度までに東アジア地方政府会合における参加地方政府数(累計)を680地方政府にします。



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H23年度	R3年度	R3年度	98.4%	R6年度
76	+456 532 地方政府	540.6	②(90~100%)	680 (75.5%)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)  
 令和3年11月に奈良県で開催した東アジア地方政府会合「経済産業分科会」に国内外の51会員地方政府が参加し、参加地方政府数の累計は532となりました。基準値である平成23年度の76地方政府から456増加し、進捗率は98.4%となっています。

背景・要因等  
 実務者等を対象とした「経済産業分科会」を奈良県コンベンションセンターでの現地開催だけでなく、同時通訳を入れたオンライン参加を併用することにより、国内外から51会員地方政府及び特別会員等20機関の参加につながりました。

KPI達成に向けた取組・成果

取組	成果
取組① 令和3年度の「経済産業分科会」は、第11回会合の西ジャワ州開催への機運を高めるため、同州と共催し、会員以外の地方政府のゲスト参加も積極的に呼びかけ、会員の加入促進に向けて取り組みました。	成果① 「経済産業分科会」には、第11回会合の開催地であるインドネシアからバンドン市をはじめ16地方政府にゲスト参加いただき、東アジア地方政府会合の取組に理解をいただく機会となりました。
取組② 第12回以降の会合の主催に関心を示している会員地方政府と積極的に意見交換を図り、海外開催の実現に向けて取り組みました。	成果② 第12回会合の中国・山東省臨沂市主催が決定したほか、第13回以降も海外の会員地方政府より主催を希望いただいている状況です。また、分科会についても、令和4年度に中国・貴州省主催により開催することが決定しました。

KPI関連指標	指標の動き				指標の動きの要因			
東アジア地方政府会合の会員地方政府数[累計](会員)	H30年度	↗	R1年度	↗	R2年度	↗	R3年度	分科会にゲスト参加した地方政府等に会員への加入促進を行いました。
	72	+1 会員	73	+1 会員	74	+1 会員	75	
海外での開催件数(全体会合及び分科会)[累計](件)	H30年度	→	R1年度	→	R2年度	→	R3年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、第11回会合(西ジャワ州開催)が2年間延期され、横ばいとなっています。
	2	+0 件	2	+0 件	2	+0 件	2	

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

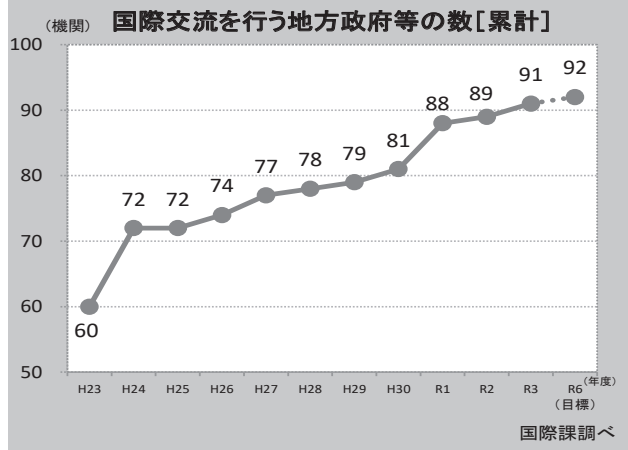
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
会員地方政府の交流を図る全体会合について、2年間開催が延期されており、開催できていないなど、対面での交流の機会が制限されています。	<p>各国の新型コロナウイルス感染症の状況が依然として厳しく、対面による交流が難しい状況です。</p> <p>今年度の取組(~7月)</p> <p>オンラインを活用した「分科会」の開催をはじめ、会員地方政府による学び合いを継続し、交流の推進に取り組みました。</p>	<p>「分科会」のオンラインによる開催や動画メッセージの交換のほか、コロナ後を見据えながら、これまでの交流による深いつながりを活かし、引き続き交流の推進を図ります。</p> <p>第13回以降の会合の主催に意欲を示している地方政府と協議し、海外での開催を推進するとともに、国内外での情報発信に努め、さらなる会合の充実・発展に取り組みます。</p>

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	21 海外との交流展開
テーマ	(109) 奈良県の国際交流の強化・拡大

CC(チーフコーディネーター)
知事公室
国際課長

戦略目標(KPI)
令和6年度までに国際交流を行う地方政府等の数を92機関にします。



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H23年度	R3年度	R3年度	107.5%	R6年度
60	+31 機関	91	①100%以上	92 (96.9%)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

国際交流を行う地方政府等の数は令和2年度から2機関増え、令和3年度には91機関となり、目安値を達成し、順調に進捗しています。

背景・要因等

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、海外との往来が難しい状況下においても、ウズベキスタン・サマルカンド州とオンラインで友好提携を締結したほか、東アジア地方政府会合への新規加入を促進するなど、新たな交流団体との連携に取り組みました。

KPI達成に向けた取組・成果

取組①	令和元年8月に包括交流に関する覚書を締結した中国清華大学とは、往来が難しい中、WEB会議などを活用し、奈良の歴史文化を活用した文化・芸術分野での交流等、具体的な交流事業について協議を進めました。	成果①	令和4年9月に、清華大学芸術博物館において、古代中国と奈良を結ぶアジア交流史をテーマとした展覧会を開催することが決定しました。
取組②	中国陝西省・韓国忠清南道とは、知事の相互訪問や次世代を担う青年の交流、文化財保護などの専門分野での交流など、多様な交流を重ね、令和3年で友好提携を締結してから10周年を迎えました。	成果②	県内で陝西省との友好提携10周年を記念したシンポジウムを開催し、150名の方々に来場いただいたほか、忠清南道で開催されたイベントでブース出展を行うなど、両省道とのつながりや、これまでの交流などを多くの方々に知っていただきました。

KPI関連指標	指標の動き						指標の動きの要因	
友好提携先海外地方政府数[累計](件)	H30年度	→	R1年度	→	R2年度	↗	R3年度	新たにウズベキスタン・サマルカンド州と友好提携を締結しました。
	3	+0 件	3	+0 件	3	+1 件	4	
東アジア地方政府会合の会員政府数[累計](会員)	H30年度	↗	R1年度	↗	R2年度	↗	R3年度	分科会にゲスト参加した地方政府等に会員への加入促進を行いました。
	72	+1 会員	73	+1 会員	74	+1 会員	75	

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
相互の往来ができていない状況であり、対面での交流の機会が制限されています。	新型コロナウイルス感染症の状況が依然として厳しく、海外の地方政府や団体と相互に往来し、対面して交流を行うことが難しい状況です。	<p>コロナ禍においても、海外地方政府や清華大学、BCC等の団体との協議を継続し、国際交流のさらなる強化・拡大に努めます。</p> <p>対面による交流が困難な状況であっても、オンラインなどを活用しながら、奈良県の歴史的・文化的特性を活かした国際交流の推進に取り組みます。</p>
	<p>今年度の取組(~7月)</p> <p>令和4年9月の中国・清華大学芸術博物館での展覧会開催や、BCC(バスクリナリーセンター)となら食と農の魅力創造国際大学校(NAFIC)との協定締結に向けて、WEB会議などを活用しながら協議を進めました。</p>	

数値目標が設定されていないテーマ等の進捗状況、課題の明確化、今後の取組方針

坊	21 海外との交流展開	CC	文化・教育・くらし創造部
テーマ	(110) 奈良の仏像、文化財の海外展示のこれから		文化資源活用課長
戦略目標(KPI)		進捗状況及び取組・成果	
令和4年秋以降に仏像等海外展示の開催を目指します。		令和3年度は、中国・清華大学芸術博物館と協議の上、県立橿原考古学研究所所管の考古資料を中心とする出陳作品リスト案を策定し、開催協定書案を作成しました。	

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
文化財の輸送計画の立案や図録制作など、令和4年9月の開催に向けた準備業務に遅れが生じています。	新型コロナウイルス感染症に伴う渡航制限により、開催館との協議や展示環境の確認が困難であり、今後もこの難しい状況が続くと予想されます。	清華大学芸術博物館等と共同し、適切な人員配置とリモート体制、展示環境を整え、文化財を安全に北京まで輸送・展示し、本展覧会の開催を実現します。  オンラインを活用したイベントを実施し、本展覧会のPRや事後の成果報告を行い、奈良の歴史文化の魅力をよりいっそう発信します。
	今年度の取組(~7月)	
	オンライン会議等を活用して、清華大学芸術博物館等と文化財の輸送・展示計画、図録制作等を進めました。	